

和田建設株式会社 環境活動レポート

THE REPORT OF ENVIRONMENTAL ACTION

2017年

(2017.4.1～2018.3.31)



目次

環境方針	1
事業の概要	2
事業の規模	3
環境目標	4
環境活動計画	5
取組状況	6
環境活動の取組結果と評価	7
環境への負荷の推移	8
代表者による評価と見直し	9
環境関連法規	10
緊急事態の想定結果及び対応策	11
その他の取組	12
処分場視察	14

WADAKENSETSU Co.,Ltd.

(発行日平成30年6月30日)

ENVIRONMENTAL POLICY

環境方針

基本理念

私たちは、地球環境保護はもっとも重要な社会貢献の一つであると考え、環境の保全を社員全員の共有する価値観とし、毎日の事業活動を通じて、社会資本整備と環境保護が共に成り立つ循環型社会の実現に取り組みます。

行動指針

- 1 法規制の遵守はもとより、環境問題の未然防止に努めます。
- 2 環境や自然を大切にせる企業風土を醸成します。
- 3 資源とエネルギーの有限性に鑑み、使用する資源の最小化に努めます。
- 4 環境負荷低減を可能にする工法や商品開発を積極的に推進します。
- 5 地域、社会や自然との共生に積極的に努めます。
- 6 事務用品や建設資材等のグリーン購入に努めます。



平成24年4月10日
和田建設株式会社
代表取締役 鈴木美奈子

事業の概要

名 称

和田建設株式会社

代表者の氏名

代表取締役 鈴木 美奈子

所 在 地

本社 〒417-0061 静岡県富士市伝法3110番地の1

電話 0545-52-1711

FAX 0545-52-6939

E-mail info@wadaken.co.jp

資材置場 〒417-0061 静岡県富士市伝法2806番地の1

設 立

昭和 48 年 4 月 1 日

資 本 金

1,000万円

事業分野

河川、道路、橋梁、下水道工事など社会基盤の整備

プラントメンテナンス、マテリアルハンドリング等の工場環境、生産環境の整備

機械基礎、機械設置工事

- ◆ 建設業許可 静岡県知事許可第001876号

許可業種 土木一式工事／建築一式工事／塗装工事／舗装工事

機械器具設置工事／管工事／とび・土工工事／解体工事

- ◆ 産業廃棄物収集運搬業許可(02201179376)

収集運搬(積替え及び保管行為を除く)

産業廃棄物の種類 廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類、紙くず、木くず、繊維くず

従 業 員 数

9 名

環境管理責任者

鈴木 美奈子

エコアクション担当者

秋山 有理

電話 0545-52-1711

E-mail y_akiyama@wadaken.co.jp

事業の規模

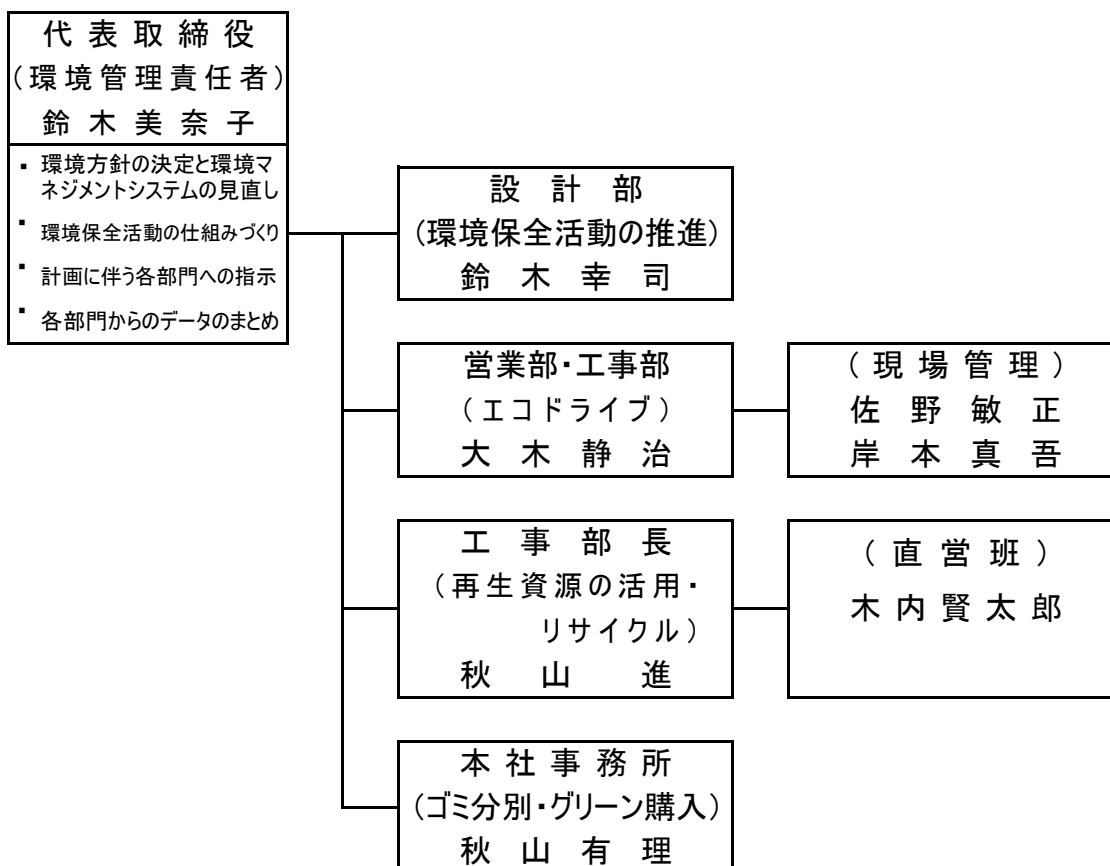
活動規模	単位	43 期	44 期	45 期
		2014.10～'15.09	2015.10～'16.09	2016.10～'17.09
工事の件数	件	232	273	246
売上高	百万円	271	311	173
従業員	人	9	9	9
事務所床面積	m2	336	336	336
倉庫床面積	m2	40	40	40
資機材床面積	m2	528	528	528

認証・登録の対象範囲

全組織・全活動

和田建設株式会社 組織図および実施体制

()内はエコアクション21担当



ENVIRONMENTAL TARGET

環境目標

環境目標

・前年度までに一定の削減成果を得られたので、今年度以降は年間維持目標値を設定し、現状維持に努めていく

	単位	基準値	2017年～2019年 目 標	削減率	備考		
		2011年					
温室効果ガス排出量	kg-co2	28533	23,500	-17.6%			
事業所	購入電力	kWh	6806	6,000	-11.8%		
	太陽光発電量	kWh	5474	5,474	—	年間想定発電量を目標値とする	
	太陽光発電売電量	kWh	1762	1,800	2.2%		
	LPG使用量	kg	308	297	-3.6%		
	水使用量	m3	249	200	-19.7%		
	グリーン購入	%	61	60	-2.4%		
	廃棄物	再資源化量率	%	89.72	90	0.3%	現状維持
		最終処分量	kg	5	5	0.0%	現状維持
	乗用	ガソリン使用量	L	1782	1,700	-4.6%	
		平均燃費	L/km	15.29	16	4.7%	
ガソリン使用量		L	4352	4,200	-3.5%		
平均燃費		L/km	9.99	10	3.0%		
現場	軽油使用量	L	3091.17	2,900	-6.2%		
	平均燃費	L/km	6.14	6.2	1.0%		
	ガソリン使用量	L	500	400	-20.0%		
	軽油使用量	L	500	400	-20.0%		
	産業廃棄物	m3	11	10	-9.1%	混廃 現状維持	
	工環境 事境 提配 案慮	公共	件	1	1	0.0%	
		一般	件	5	5	0.0%	

※電力は東京電力調整後排出係数0.474kg-co2による

※現場においては2011年の参考数値

ENVIRONMENTAL ACTION PLAN

環境活動計画

項 目	担当者
① 二酸化炭素排出(燃料・電気)の低減	
全車両のエコドライブの周知	大 木 静 治
低排気車両の購入の検討	鈴 木 美 奈 子
遮光・断熱化対策	
エアコンの設定温度を夏28℃冬20℃に設定	秋 山 有 理
クールビズ・ウォームビズの推奨	
消灯の徹底	
省エネ重機の使用	大 木 静 治
② 水使用量の低減	
事務所での節水	鈴 木 美 奈 子
水漏れ点検の実施	
③ 廃棄物排出量の低減	
コピー用紙の両面使用	秋 山 有 理
業務連絡に電子メールの利用など、ペーパーレスに努める	
仮設資材を整理整頓して、購入を控える	大 木 静 治
建設副産物の分別化	
④ リサイクル推進	
ダンボール、雑誌等紙類のリサイクル	秋 山 有 理
ペットボトル、瓶、缶等飲料容器のリサイクル	
⑤ グリーン購入の推奨	
従来と値段が一緒ならばグリーン購入に乗り換える	秋 山 有 理
リユース製品の購入	
⑥ リサイクル商品の開発と販路拡大	
リサイクル可能な資材の使用を推進	秋 山 進
瓦再生砕石の使用を提案・推進	
⑦ 環境配慮工事提案	
環境に配慮した施工を提案	大 木 静 治
コスト削減につながる施工を提案	
⑧ 地域の環境活動への参加	
地域の環境活動へ積極的に参加する	鈴 木 幸 司

取組状況 ACTION STATUS

項目	評価	評価内容	今後の取組
① 二酸化炭素排出(燃料・電気)の低減			
全車両のエコドライブの周知	○	各ドライバーの前年度平均燃費を確認	継続実施
低排気車両の購入の検討	○	低排気車両購入	継続実施
空調設定温度 夏28℃冬20℃	○	徹底されている	継続実施
クールビズ・ウォームビズの推奨	○	全社員に説明	継続実施
消灯の徹底	○	消灯を促すシールを貼る 担当者から全社員に説明	継続実施
省エネ重機の使用	○	省エネ重機をリースするよう、全社員に説明	継続実施
② 水使用量の低減			
事務所での節水	○	徹底されている	継続実施
水漏れ点検の実施	○	徹底されている	継続実施
③ 廃棄物排出量の低減			
コピー用紙の両面使用	○	徹底されている	継続実施
業務連絡のペーパーレス化	○	業務連絡は電子メールまたは口頭で	継続実施
仮設資材を整理整頓して、購入を控える	○	担当者から全社員に説明	継続実施
建設副産物の分別化	○	担当者から全社員に説明	継続実施
④ リサイクル推進			
ダンボール、雑誌等紙類のリサイクル	△	徹底されているが、排出量を把握しきれなかった	継続実施
ペットボトル、瓶、缶等飲料容器のリサイクル	△	徹底されているが、排出量を把握しきれなかった	継続実施
⑤ グリーン購入の推奨			
グリーン購入・エコマーク商品の購入	△	現場でのグリーン購入品の把握がされていない	継続実施
詰め替えできる商品の購入	○	徹底されている	継続実施
⑥ リサイクル商品の開発と販路拡大			
リサイクル可能な資材の使用を推進	○	徹底されている	継続実施
瓦再生砕石の販売	○	所属する協同組合により「ウインセラミコ」の販売を促進	継続実施
⑦ 環境配慮工事提案			
環境に配慮した施工を提案	○	環境アドバイザーの資格取得	
コスト削減につながる施工を提案	○	工期短縮などにより、省エネ・廃棄物の減量などにつなげた	継続実施
⑧ 地域の環境活動への参加			
地域の環境活動へ積極的に参加する	○	紙類は就業継続支援B型事業所へ、空き缶は鮎の稚魚を放流するためのボランティアに寄付。 富士市環境エネルギー推進協議会員	継続実施

取組結果

環境活動の取組結果

(目標達成○、未達成×)

		単位	実績	目標数値	実績%	達成	
事業所	購入電力	kWh	5,407.0	6,000	-9.9%	○	
	太陽光発電量	kWh	5,864.0	5,474	7.1%	△	
	太陽光発電売電量	kWh	2,028.0	1,800	12.7%	○	
	LPG使用量	kg	303.4	297	2.2%	×	
	水使用量	m3	189.0	200	-5.5%	○	
	グリーン購入	%	61.0	60	1.7%	○	
	廃棄物一般	再資源化率	%	99.3	90	10.3%	○
		最終処分量	kg	3.0	5	-40.0%	○
	乗用	ガソリン使用量	L	1,126.0	1,700	-33.8%	○
		平均燃費	km/L	13.4	16	-16.1%	×
現場	乗用	ガソリン使用量	L	4,329.0	4,200	3.1%	×
		平均燃費	km/L	11.2	10	9.2%	○
	場	軽油使用量	L	3,373.0	2,900	16.3%	×
		平均燃費	km/L	6.4	6	2.6%	○
		ガソリン使用量	L	147.0	400	-63.3%	○
場	軽油使用量	L	123.0	400	-69.3%	○	
	産業廃棄物(混廃)	m3	12.2	10.0	22.0%	×	
工事環境配慮	公共	件	2.0	1.00	100.0%	○	
	一般	件	5.0	5.00	0.0%	○	

☆エネルギー使用量

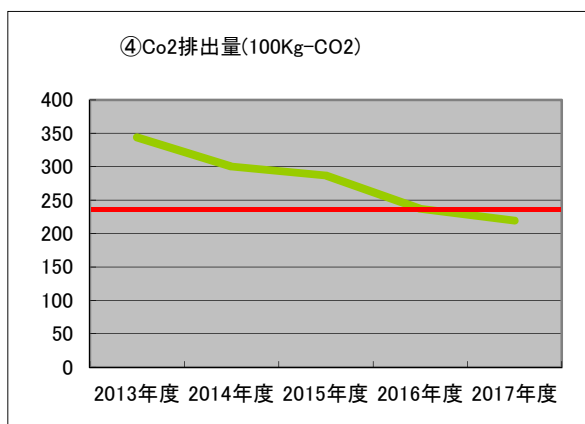
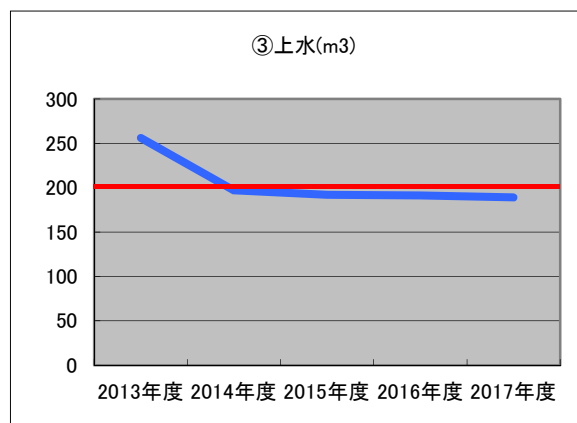
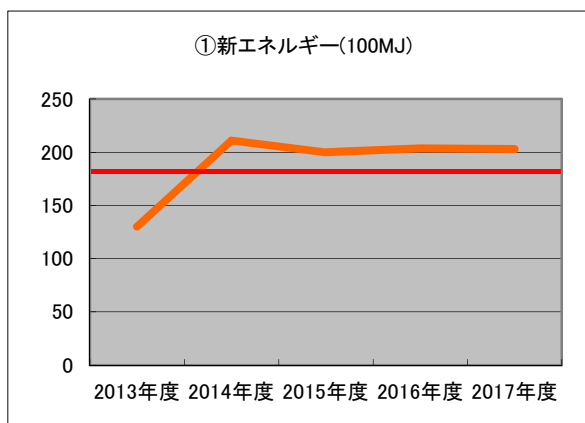
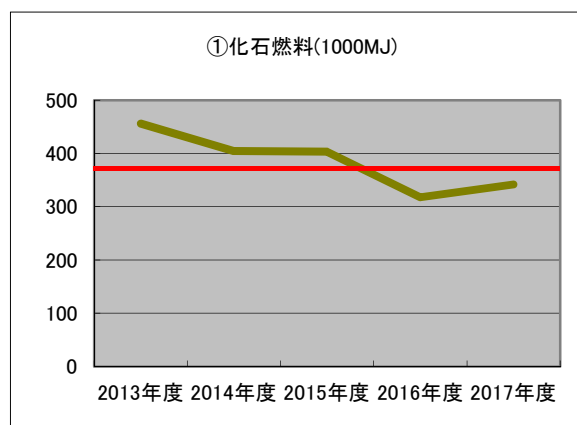
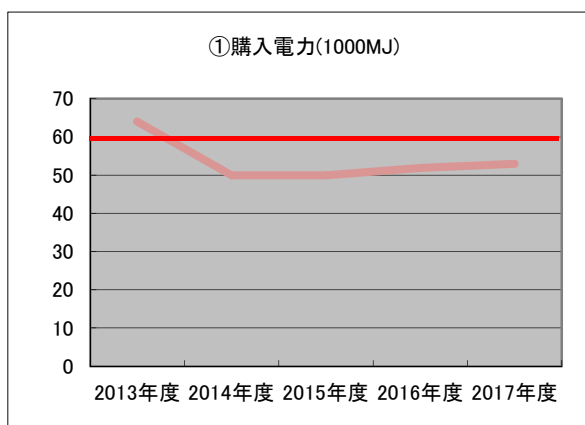
CO2排出量換算表

(電力は東京電力調整後排出係数0.474による)

		目標	実績	参考(2008年度CO2排出量)	
事業所	購入電力	2,844.00	2,562.92	45,156.53	
	太陽光発電量	2,594.68	▲ 2,779.54		
	太陽光発電売電量	853.20	▲ 961.27		
	ガソリン使用量	3,946.82	2,614.19		
	LPG使用量	891.58	910.91		
	計(kg-co2)	7,682.40	2,347.20		▲ 5,335 kg-co2
現場	乗用	ガソリン使用量	9,750.97	10,050.47	(目標達成)
		軽油使用量	7,610.59	8,851.90	
	場	ガソリン使用量	928.66	341.28	
		軽油使用量	1,049.74	322.79	
計(kg-co2)		19,339.96	19,566.44	226 kg-co2	

環境への負荷の推移

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
①購入電力(1000MJ)	64	50	50	52	53
①化石燃料(1000MJ)	456	404	403	317	342
①新エネルギー(100MJ)	130	211	200	204	203
③上水(m3)	256	197	192	191	189
④Co2排出量(100Kg-CO2)	344	300	287	237	219



— 目標ライン

代表者による評価と見直し

見直し 関連情報	項	目	チェック	評	価
	1	環境活動の記録	■	記録文書として作成しました。	
	2	環境目標及び目標達成状況	■	これまでの取組を踏まえ、新たに維持目標を設定し、現状を維持できるよう取り組みました。	
	3	環境活動計画及び取組実施状況	■	継続して取り組みます。	
	4	環境関連法規要求一覧及び遵守状況	■	環境活動報告書に記載の通りです。	
	5	外部コミュニケーション・対応記録	■	本年は外部からの苦情はありませんでした。	
	6	取引先、業界、関係行政機関その他外部動向	■	特にありませんでした。	

代表者による 全体評価・見直し 指示	事業所	温室効果ガス エコアクションの認証を受けてから9年が経過し、当初と比較して約48%の削減に成功した。しかし今後、これ以上の削減には無理があるため、本年度より削減目標から現状維持を目的とする維持目標値を設定することとした。これまでの実績を踏まえた上で、目標を設定したが、ほとんどの項目で無理なく達成できた。 LPGについては、ほぼ冬の暖房に使用しているが、今年は例年に比べ気温が低かったため、使用量が増加した。電気よりLPGの方がCO2の発生量率が高いため、エアコンの推奨設定温度に因わず、その都度エアコンの温度を上げるなどして対応していきたい。 ガソリンの使用量は減っているが、燃費は目標達成できなかった。電気自動車導入の成果がなかったというより、既存のガソリン車の燃費が大幅に悪くなっている。		
		水使用量 無駄な使用も無く、漏水も無かった。		
		グリーン購入 今年度は、目標には届かなかったが前年度に比べて改善した。今後も他社との比較検討を進めていきたい。		
	現場	一般廃棄物 一般廃棄物については、可燃ごみ以外の廃棄物についてはほぼ再資源化できている。今後も徹底していきたい。		
		今年度は、CO2排出量が目標値より226kg-CO2多かった。ガソリン・軽油については現場での使用量は少なかったが、遠距離の現場が多かったため、乗用の燃料が増えた。 工事での環境配慮事項については、それぞれの現場ごとに対策しているが、全体で把握することが出来なかった。今後はその方法についても考えていきたい。 産業廃棄物においては、527tが再資源化され、最終処分量は1.6t、再生率は99.7%だった。今年は解体を含む工事が増えた為、混廃の量が増加したと思われる。今後も出来る限り廃棄物の分別を心がけていきたい。		
		見直し項目	変更の 必要性	有の場合の指示事項等
		1 環境方針	無	
	2 環境目標	無		
	3 環境活動計画	無		
	4 環境に関する組織	無		
	5 その他のシステム要素	無		
	6 その他(外部への対応)	有	事務用品を購入する場合、他社製品と比較検討する。	

平成30年6月30日

和田建設株式会社

代表取締役 鈴木 美奈子

環境関連法規

1.環境関連法規の遵守状況

当事業所に適用される環境関連法規の遵守事項を確認した結果、違反はありませんでした。

主要な法律等		適用内容または規制基準値	遵守項目	遵守状況確認		
一般	環境基本法	事業者の責務	ばい煙、汚水、廃棄物等の処理その他の公害防止、自然環境の保全に必要な処置を講ずる。製品の使用又は廃棄による環境への負荷の低減に努める	○	2018/3/31	
	地球温暖化対策の推進に関する法律	事業者の責務	温室効果ガス排出の抑制に努める	○	2018/3/31	
	グリーン購入法	事業者の責務	環境物品の購入	○	2018/3/31	
	富士市廃棄物の処理及び清掃に関する条例	事業者の責務	廃棄物の発生を抑制し、及び再利用を促進することにより廃棄物の減量を推進するとともに、廃棄物を適正に処理し、循環型社会の形成と生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図る	○	2018/3/31	
事業	建築基準法	内装仕上げ・換気設備及び天井裏等の工事	石綿含有建材の使用禁止	○	2018/3/31	
			クロルピリホス添加建材の使用禁止	○		
			ホルムアルデヒドに関する規制	○		
	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物	処分事業所との委託契約	○	2018/3/31	
			①マニフェストの交付 ②回収・照合（発行後B2,D票90日E票180日以内） ③保管(5年間)	○		
			マニフェスト交付状況報告（毎年6月30日までに）	○		
			保管場所の掲示	○		
		野外焼却の禁止		○	2018/3/31	
	建設	建設工事に係る資材の再資源化に関する法律	建築物の解体	発注者への説明	○	2018/3/31
				都道府県知事への届け出（工事着手する日の7日前まで）	○	
分別解体等				○		
再資源化等の促進				○		
再生資源の使用				○		
騒音規制法	特定建設作業・適用指定地域	規制地域での規制の遵守	○	2018/3/31		
振動規制法	特定建設作業・適用指定地域	規制地域での規制の遵守	○	2018/3/31		
建設業法	建設業許可と更新	許可と5年ごとの更新	○	2018/3/31		
連	上下水道法	管工事業者許可と更新	許可と5年ごとの更新	○	2018/3/31	
		施工基準	遵守と届出	○	2018/3/31	
	道路法・河川法	施工基準	遵守と届出	○	2018/3/31	
	消防法	保管数量の管理	第1石油類(ガソリン)36Lまで	○	2018/3/31	
ジャココ構内作業規定	公害防止・環境保全の義務	騒音・悪臭・振動・排水等による公害防止及び環境事故の防止	○	2018/3/31		

※毎年見直すものとする

2.違反・訴訟の有無

過去3年間、関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

作成者	承認者
	

緊急事態の想定結果及び対応策

1. 緊急時対策

想定結果

運搬時の有機溶剤(油脂類)の漏出

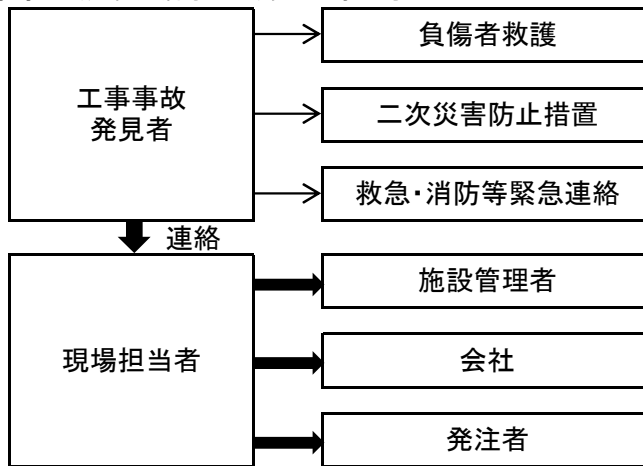
定期訓練日

平成29年7月10日

総合防災訓練に伴い、有機溶剤の漏出事象対応訓練

2. 緊急時の体制

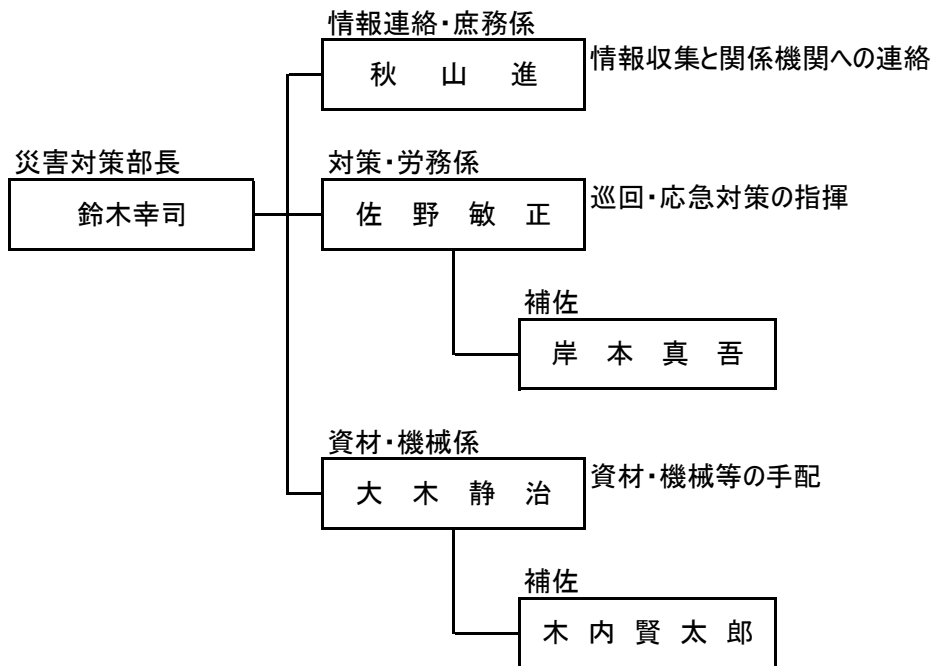
工事事故(火災・漏水など)発生時の対応



大雨、出水、強風、地震時の対応

大雨、出水、強風、地震などの異常気象で、災害発生のおそれのある場合は、下記の組織体制で必要に応じて現場内をパトロールし、警戒に当たる。

また、現場内において事故発生、またはその恐れのある場合も同様の組織で対応する。



そのほかの取組



和田建設(株)太陽光発電所
(当社事務所屋上)



平成29年7月10日
安全大会にて
下請業者へ環境配慮事項
を周知





平成29年7月10日
環境事故対応訓練



処分場視察

有限会社みらい



三和興産株式会社



前田道路株式会社

